

# Dam

計画概要図



**ダム事業の概要**  
大保ダムは、洪水調節、新たな水道用水の確保、既得取水の安定化及び河川環境保全のための流量の確保を目的に、大宜味村を流れる2級河川大保川に建設される多目的ダムで、奥間ダムとともに沖縄北部河川総合開発事業を構成しています。

ダム形式については地形・地質的な条件から、本川に本ダムとして重力式コンクリートダムを、東南部の低位部に脇ダムとしてロックフィルダムを建設します。総貯水容量は約一〇〇〇万 $\text{m}^3$ で、完成すると沖縄県では福地ダムに次ぐ2番目の容量を誇るダムとなります。



その4  
開発建設部

## 大保ダム

沖縄北西部河川総合開発事業  
～本ダム仮排水路工事起工式～

水道用水については、大保ダムと奥間ダムを導水路で結ぶとともに、本島北部西海岸の8河川の県企業局のポンプ場から取水された水を大保ダムで安定化することにより、両ダムで日量二、〇〇〇 $\text{m}^3$ を安定供給することが可能となり、これは県企業局が供給する水道用水の約2割を占めることとなります。



起工式

### 事業の経緯

沖縄北西部河川総合開発事業は平成2年に建設事業に採択され、平成5年には基本計画が策定されました。その後平成7年に関連道路工事に着手し、平成8年には損失補償基準の協定を大宜味村と締結し、現在では付替道路が平成12年度末に完了の見込みとなっている他、用地補償も本ダム周辺を除き完了しております。

大保ダム諸元表

型 式	本ダム 脇ダム	重力式コンクリートダム ロックフィルダム
堤 高	本ダム 77.5m	脇ダム 61.0m
堤 頂 長	本ダム 380.0m	脇ダム 473.0m
堤 頂 標 高	本ダム EL73.5m	脇ダム EL75.0m
堤 体 積	本ダム 500,000 $\text{m}^3$	脇ダム 1,536,000 $\text{m}^3$
集 水 面 積	13.3 $\text{km}^2$	
湛 水 面 積	0.89 $\text{km}^2$	
総貯水容量	20,050,000 $\text{m}^3$	
有効貯水容量	19,350,000 $\text{m}^3$	

仮排水路諸元表

集 水 面 積	13.3 $\text{km}^2$
対 象 流 量	80 $\text{m}^3/\text{s}$ 確率 1/1年
延 長	970m 呑口部 11m トンネル部 959m
勾 配	1/150

### 仮排水路工事

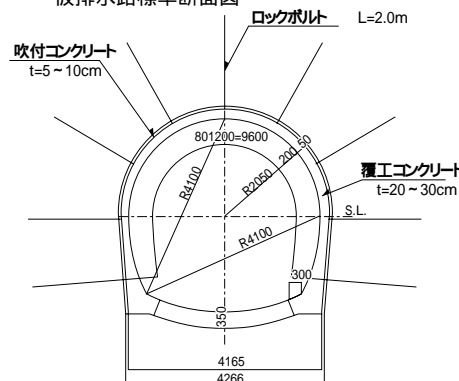
一般にダム本体は、現在河川水が流れている場所に建設するため、ダム建設に先立ち河川を切り替え、河床をドライにして施工します。大保ダムでは本ダム施工にあたり、本ダム左岸部に仮排水路としてトンネルを掘り、そこに河川水を流すことにしました。

仮排水路は、内径4.1mの標準馬蹄型で総延長が九七〇mあり、最大毎秒80 $\text{m}^3$ まで流すことができます。施工方法については、ナトム工法で掘り進み、掘削完了後に掘削面をコンクリートで覆いトンネル部を完成させた後に、呑口部の施工と上流仮締切工を実施することになっており、平成13年度末には完成の予定です。

### 起工式

北部ダム事務所の主催により、仮排水路工事の起工式が昨年12月3日、現地のトンネル坑口付近で行われ、安川沖縄県技監、照屋大宜味村長、宮城東村長(代理)ら多数の来賓の

仮排水路標準断面図



方々の御出席をいただきました。起工式は、川崎北部ダム事務所所長の式辞により始まり、加納沖縄総合事務所次長の挨拶、田嶋北部ダム事務所副所長の工事概要の説明に続き、県技監・大宜味村長、東村長(代理)の方々からの祝辞をいただいた後に、沖縄総合事務所次長ら10名による鉄入れが行われ終了しました。

### 終わりに

このたびの仮排水路工事の着手により、北部ダム事務所はダム本体着工に向けて大きな一歩を踏み出しました。今後は本ダム及び脇ダムの実施設計を進めるとともに、本体着工の覚書を大宜味村と締結し、本体工事の早期発注に努めたいと考えております。

また、今後ともヤンバルの豊かな自然に配慮して工事を進める所存でありますので、関係各位のなごろのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。